

開 会 令和6年3月27日（水）午前10時00分
閉 会 令和6年3月27日（水）午前11時25分

令和5年度第3回金ヶ崎町子ども・子育て会議 会議録

金ヶ崎町子育て支援課

令和5年度第3回金ケ崎町子ども・子育て会議会議録

令和6年3月27日（水）午前10時金ケ崎町役場4階大会議室において、金ケ崎町子ども・子育て会議を開催した。

1. 出席委員

会 長	吉田 泰治	副会長	渡辺 理恵
委 員	菊地 春香	委 員	渡邊つる代
委 員	小野寺謙一	委 員	千葉 勝
委 員	鹿島 麻衣	委 員	照井 崇経

2. 欠席委員

委 員	高橋 邦博	委 員	菊池 直美
委 員	高橋 和博	委 員	高橋 修
委 員	千枝 徳三	委 員	扇 良明
委 員	佐藤 薫		

3. 町出席者

高橋町長

【関係課】

教育委員会事務局 教育次長 千葉重徳、次長補佐 及川博、
主査 市橋美花、主事 菊地祥

【事務局】

子育て支援課 課長 稲葉郁子、課長補佐 浅利英克、副主幹 菊地淑子
主事 及川真人、主事 高野経子

4. 傍聴人 2人（報道機関2人）

4. 会 議

〔1. 開会〕

稲葉課長 令和5年度第3回子ども・子育て会議を始めさせていただきます。本日の司会を務めます子育て支援課の稲葉です。

本日は、高橋邦博様、菊池直美様、高橋和博様、高橋修様、千枝徳三様、扇良明様、佐藤薫様より欠席の報告をいただいております。

本会議は、金ケ崎町子ども子育て会議条例第6条第2項により委員の半数が出席しております。定足数に達しておりますので、本会議は成立しておりますことをご報告いたします。

それでは、吉田会長よりご挨拶をいただきます。

〔2. 挨拶〕

吉田会長 本日は年度末のお忙しいところ、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。

前回の会議では、ニーズ調査の必要性及び、家庭で回答することの負担はないのか、回答しやすいものなのか、そして知りたいことが十分知れるのかのご意見をいただきまして、担当課の努力もあって、今年初めに実施して、回収率は前回と同等ということで聞いております。本当に皆様のご協力があったことと思っております。

本日は調査の結果について、説明いただきます。結果を基に今後の子育てについて、皆さんで分析、考察してまいりたいと思います。どうぞ忌憚のないご意見をいただければと思います。どうぞよろしく願いいたします。

稲葉課長 ありがとうございます。続きまして、金ケ崎町長高橋寛寿より皆様にご挨拶を申し上げます。

町長 おはようございます。第3回金ケ崎町子ども・子育て会議のご案内をしましたところ、年度末の忙しい中、お集まりいただいたこと

を心から感謝申し上げます。

金ケ崎町としても、子育ては、これからのまちづくりをどうしていくかということの非常に大きな要素と考えております。国ではこども大綱などを順次定めておりますが、地方とすれば具体策はこれからかなと思うところも多々あるところではあります。国はどうかという面もありますが、一方で地方ではこういう課題があるので、こういう対策、こういう施策を実施していきたいと声を上げることも非常に重要と考えているところです。

今回は、前回ご審議いただいたアンケート調査結果を示して、具体的な施策をどう展開していくかということについて、ご意見をいただくことになろうかと思っております。70%を越す回収率は多くの方々の高い関心を示すと思っております。しかし、アンケートの目的は高い回収率ではなくて、この先の具体策をどう展開していき、地域で子どもを育てる環境を整えることに繋げていくということで、そのためには皆様からの忌憚のないご意見をいただいて実現をしていかなければならないと考えております。どうぞよろしくお願いをいたします。

稲葉課長 町長は公務のためここで退席をさせていただきます。

(町長退席)

稲葉課長 続きまして、「3. 報告」に入ります。

この後の進行につきましては、会長に議長をお願いいたします。吉田会長、お願いいたします。

〔3. 報告〕

吉田会長 本日は報告が1点ございます。それでは早速報告に入ります。

報告「(1) 金ケ崎町子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査の報告について」、事務局ご説明をお願いいたします。

事務局 (ニーズ調査・子ども生活調査の報告)

アール・ア楠木 (ニーズ調査・子ども生活調査の報告)

吉田会長 回答についての意見は、後ほどということにして、それ以前の部分について現時点でご質問はないでしょうか。

(なしの声)

吉田会長 それでは進めさせていただきます。

回答の中身に沿ったご協議をいただきたいと思います。大変膨大な資料ですが、まずは事務局の分析をお話しする前に、皆さんの素の目で見たとえでご意見をいただきます。その後、事務局より分析を話して、再度ご意見をいただきます。資料に目を通す時間を持ちますので、読んでいただき、これからの具体策に活かす部分をご指摘いただきたいと思います。それではお願いします。

(15分間／「ニーズ調査・子ども生活調査報告書」の閲覧)

吉田会長 それでは、読みこなせた部分で、お気づきの点があればご発言をお願いいたします。

では、私から口火を切らせていただきます。

私はこの調査の中ですごく良いなと思ったのが、お父さんの子育て感覚が進行していることです。おそらくお父さんの職場でも理解が広まっていると思いますが、子育ての流れが企業にも伝わる働きかけがあると、お父さんも子育てやパパ活により関われると思います。分厚い資料では読まないの、引きつける見出しで企業の目に留まるようなPRが必要と思いました。

それから、学童保育に対するニーズが非常に高まっているところが目に止まりました。ただ、私の小学校区の三ヶ尻学童保育では、施設の狭さが課題になっているようです。学童の受け入れ人数を増やすという対策を行っていることがあれば教えてほしいです。また、今後の見通しなどがあれば教えてほしいです。

事務局 お父さんの関わり方については、子育て支援センターとも相談しながら、今年度の途中から色々な事業を取り組んでいるところです。企業への伝達等については、来年度計画を作りながら改めて検討していければと思います。

三ヶ尻学童保育所の狭さの件ですが、令和5年度は入所児童が50人でしたので、運営団体の社会福祉協議会と協議し、来年度は単位分離やスペースの確保を考えていましたが、来年度は10人ほど減る見通しでしたので、国の基準等を基に単位分離を行わない予定であります。ただ、児童数は随時変化がありますので、社会福祉協議会と情報共有は図り、対応していきたいと思っております。

吉田会長 わかりました。ありがとうございました。

他に、何かご意見ございませんでしょうか。

小野寺委員 10ページの「子どもの育ちをめぐる環境」の中で、2番の「気軽に相談できる人・場所」になります。ある程度偏りやバランスがあっても、相談できる人が結構いるという感想を持ちました。大事なのは11ページの「相談できる人がいない、場所がない理由」で、細心の注意をいただければと思いました。分析の時には単に知らないだけなのか、本当にこういった状況が起きているか、何名くらいいるのかというのもデータの中に入れて分析を加えていただければと思いました。

(11ページ) 4番の「事業の周知状況・利用状況・利用意向」は、認知度が大変良いことだと思って見ました。子ども食堂のニーズも急に増えてきたので、ひとり家庭で必要とされる流れが現れてきているのかなと思いました。

吉田会長 事務局から何かコメントはありますか。

事務局 11ページの「3. 相談できる人がいない、場所がない理由」については、課題として計画策定の資料にしていきたいと思っております。

吉田会長 よろしいでしょうか。

前回の会議の中で、調査の結果について皆さんご存知ないのではないかと、広報活動の工夫をとという意見があったと思いますが、今の子育て世代のお父さんやお母さんたちは、SNSなど検索が非常に上手で、意外に広まっていると思いました。

そのほかご意見ないでしょうか。

渡辺副会長 子育て支援センターの渡辺です。11 ページの 4 番の「(1) 事業の周知状況」について、子育て支援センターの周知状況が 91.1%でとても高いことがわかりました。町のホームページ広報紙でも周知をしていただいているので、この結果に繋がっていると感じました。また、支援センター事業をさらに周知するため、今年度から支援センターのブログで行事の様子を写真掲載しお知らせしていたので、この数字にも繋がっているのかなと嬉しく感じました。

それから、10 ページの「2. 気軽に相談できる人・場所」で、今までも子育て支援センターで随時子育て相談を行ってききましたが、令和 6 年度から毎週金曜日と土曜日に相談日を設定し、保育士が子育て相談に応じられるようにしていきます。

66 ページの自由意見で、子育て支援センターへの意見が載っていたので、これからの支援事業に活かしていきたいと思います。

支援センターは、今年度お父さんの利用がとても増えました。土曜日にパパデイという行事を例年通りに行っていましたが、土曜日開催の支援センターが珍しいということで、土曜日休みのお父さんが利用されております。その状況もブログでお知らせして利用へ繋げています。

吉田会長 町のホームページから、ブログはリンクできるのですか。

渡辺副会長 そうですね。

吉田会長 他に、ご意見はないでしょうか。

鹿島委員 前回の会議で、送迎の意見を結構言いましたが、自由意見を見ると、送迎に困っている家庭があること、私だけではなかったことが分かって、最終的には充実できたらと思いました。

31 ページの「3. 病後児保育の利用意向」について、私は以前に結構利用しましたが、「利用したいと思わない」が多いことがすごい衝撃で、仕事を 1 週間休むことは大変ではないかなと思いました。みんなどうしているのか、家庭内で頑張ることはすごく良いことですが、逆にしんどくならないか心配に思いました。

自由意見には、マイナス意見だけではなくて、給食費とか医療費が充実しているといっぱい書いてあったことはとても印象的で、みんなすごく助かっているのだなと感じました。

事務局

経済的支援と送迎の件は、事務局の分析の中で説明します。

子育て支援センターでは、ブログが大変好評で、紙媒体の他にブログで随時紹介されているので、利用しやすくなっているのかなと思います。

相談に関しては、気軽に支援センターを利用しながら相談できるように、令和6年度から体制を整えていく予定で考えております。

吉田会長

では、そのほかにご意見はないでしょうか。

千葉委員

企業クラブ事務局の千葉です。

アンケート調査を見て、自由意見が多く、計画や分析のしがいがあるくらいの量で、貴重な対応する意見であると思います。

私は子ども調査を中心に見ましたが、小学校5年生や中学校2年生は、いじめに悩んでいる子どもたちが結構いるということで、ケアしていく仕組みを構築していく必要があると感じました。

119ページの「希望の仕事」、「将来働きたい地域」では、金ケ崎で働きたい方が少ないので、私たちの企業側も子どもたちに分かりやすく、どういった仕事をしているかをPRしていくことが必要ということで、逆に良いヒントをもらったなと思いました。残念なことに、金ケ崎高校に行く人がすごく少ないので、今後の対応をどうしていけば良いのかと考えました。

吉田会長

何かコメントはありますでしょうか。

事務局

119ページの中学生及び高校生の調査については、全国的な調査の項目とは別に、独自にしたものです。希望する仕事は町内に所在するのは4割となっております。ただ、120ページの「働く場所」については、町内の希望が中学2年生で7.6%、高校2年生で6.6%となっています。職種は、中学2年生で公務員や医療がトップですが、町外や県外を希望する子どもが多いと読めるところです。

「町内の高校の選択」については、117 ページにありまして、将来希望する中学 2 年生が 79.1%です。

吉田会長

高校生や大学卒業の子どもは、自分の職業の前に、一人暮らしを 1 回したいと思います。一人暮らしの魅力に勝っていかなければならないなと思いました。今回は高校生に聞いていますが、違う年代に聞いてみると、やっぱり金ヶ崎に戻りたい、地元で働きたいという希望も把握できるかもしれないので、ターゲットを絞って働きかけるのも一つ手かなと、素人ながら思ったところです。

他に、ご意見やご感想等があればお願いします。

(なしの声)

では、事務局の分析を聞きまして、その上でまたご意見いただきます。それでは説明をお願いします。

事務局

(主な調査結果について、別紙資料により説明)

吉田会長

ご説明ありがとうございます。ご意見があればお願いします。私からですが、ヤングケアラーに関して、相談があればもちろん対応策があると思いますが、子どもにケアされている保護者がいても、保護者からの相談はない気がします。家庭でヤングケアラーがいることはキャッチしづらい、何かキャッチする方策があれば良いのにと感じているところでございます。

いかがでしょうか。

渡邊委員

私は小野寺委員と同じく民生委員という立場でもあります。実際、子どもたちが家でヤングケアラーといわれる立場にいることは、把握できていません。高齢者は、家におじゃますることができます。ただ、子どもは昼間におらず、両親も働いているので、分かりません。民生委員の定例会で、社会福祉協議会から子ども食堂の資料を渡されて、どこの家に誰がいるかを把握しているので家へ行っても、会うことができない。私たちはそれを渡して情報を提供するだけなので、この結果を見て、私は子ども子育て会議の委員や民生委員としての立場で、何かできることがないかと思いまし

た。謙一さん（小野寺委員）、どうですか。

小野寺委員 基本、相談を受けてから動く立場ですから、家へズカズカ行けないです。個人情報もあるので、本当にどうしようかと悩んでいます。

渡邊委員 結果を見ると、本人からの回答として、子どもがたくさんのお世話をして、学校も休まなければならないということが実際にあるということで、ショックを受けています。

吉田会長 他市町村ですが、私の直面した事例としては、ヤングケアラーと思う子どもの保護者に話を聞くと「うちの子はお手伝いが大好きなのです。私はやれと言っていないのに、やってくれます。」と言い、結局クラブを辞めてお母さんのお世話をし、お母さんは仕事に行くからと嘘をついて、実際はネットカフェで過ごして仕事から帰ってきたように見せて、帰ると子どもたちがワインを注いで待っていてくれるという状況の家庭がありました。なかなかその状況を見つけていくことは難しい。保護者には隠されるし、自覚がないのかもしれないということもあります。とりあえず学校の欠席で、端緒は見えるかもしれないので、学校でも欠席理由をしっかりと確認する等、力を入れていきたいと思えますし、もし疑いでもキヤッチできた時は、教育委員会の生徒指導から情報共有できるようにしていきたいと思えます。

その他ご意見はないでしょうか。よろしいですか。

（なしの声）

それでは、報告「（２）その他」です。自由にご発言する中身がありましたらお願いいたします。

（質疑応答なし）

では、以上で議事終了ということで、議長の任を終了いたします。ありがとうございました。

〔４．その他〕

稲葉課長 ありがとうございました。それでは「次第４．その他」に入りま

す。皆様から何かご意見とかはございませんでしょうか。

それでは、事務局より報告がございます。

教育次長

教育支援センターについてお知らせいたします。教育支援センターとは、なかなか学校に足が向かない子たち、不登校の傾向のある子どもたちで、学びの機会や居場所を確保するために、全国で教育支援センターを設置する大きな流れになっているもので、本町でも令和6年度に開所することで準備を進めています。

現在のところ、教育支援センターに常駐する職員を1名新たに採用して配置します。また、教育委員会事務局内にいる2名が週4日勤務していますが、それぞれ週に1回だけ教育支援センターに勤務することとし、週に2回は2人体制となります。そのような状況で、学校に行けない子どもを受け入れて、勉強を教えたり、勉強にはたどりつかないけど見てもらったりなどの対応をしていきたいと思えます。また、2人体制の日を中心に、家庭訪問などをしていきたいと考えております。

具体的な運営は、新しい職員が揃った4月頃に検討を進めますので、5、6月頃の開所を目指しています。場所は中央生涯教育センターの一室を準備しております。センターの正面から入ると人が多いので、心配する点もあるかと思いますが、図書館側から人に見られずに出入りすることも可能な場所となっていますので、その一室で運営をしていきたいと考えております。

稲葉課長

教育委員会からお知らせがありました。今の件で意見や確認はありますか。よろしいでしょうか。

(質疑応答なし)

稲葉課長

それでは、5、6月頃に開所ということでしたので、教育支援センターの情報を、皆様からも発信していただけると幸いです。

事務局

事務局から、今後の予定について報告します。

来年度は、子ども・子育て支援事業計画の策定を進めていきたいと思っております。計画策定にあたっては、子ども子育て会議

を6月、9月、11月、3月の予定で開催したいと思います。皆様からご意見をいただきたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

また、今回の調査結果につきまして、会議中のご意見、ご質問等を行うことができなかった箇所もあると思いますので、今回の会議録を送付する際に、改めて質問や意見をいただくよう依頼文書を同封しますので、その際にはご意見等をいただければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

〔5. 閉会〕

稲葉課長 それでは、お忙しいところ長時間に渡り、ご意見などをいただき、ありがとうございました。

 令和5年度第3回の会議について、これで終了させていただきます。どうもありがとうございました。お疲れ様でした。